

仕合わせの和

第188号

H. 29. 11. 1
(毎月1日発行)

五〇〇年祭始まる

住職 谷川寛俊

いよいよ開創五〇〇年祭が四日間に亘って始まりました。この五〇〇年に縁を受けた私達は、選ばれた人達ばかりだと信じてます。「よくこの様な大きな企画ができますね!」とあちこちから心のこもった驚嘆とも思えるお言葉をかけて励まして下さる方もいらつしやいました。有り難い事です。

今月は五〇〇年祭の記念法要の慶讃文(けいさんもん)を掲載させて頂きます。

●慶讃文

謹み敬って勧請し奉る南無久遠実成大恩教主本師釈迦牟尼仏…(以下略)。御宝前に於て、本日(の)吉辰を卜(ぼく)し、玉蓮山真成寺開創五〇〇年の嘉辰を迎え、檀信徒と共に一会の記念法要を厳修し奉る。そもそも当山は、永正十四(一五一七)年、室町時代

後期の開創にして、初代日等上人は、魚津市大谷の郷(さと)に誕生され、幼き頃より「一を聴いて十を悟る」と村人から神童と崇められたり。当時、学徳兼備の名僧と尊敬されし、京都本山妙覚寺第十九世日乾上人について修行し、真如房と称さるる。一意専心行学二道に精進す。

折しも、松倉城の大家老、玉ノ池伊織病魔におかされ生死をさまたぐも、日等上人、鬼子母尊神様の御前に於て、一心に法華経・お題目の御祈禱により、病たちまち平癒す。同じく吉崎多聞の妻の難産を安産になさしめ給う。以来、この兩名、念仏の数珠を切り、法華経の信者となれり。日乾上人大いに喜び、玉蓮山真成寺の山号寺号と、真如房に慈光院日等の院日号を授与せらる。爾来、本年開創五〇〇年を迎える也。顧みるに沙門某(それがし)、昭和六十二年十一月三日、京都大本山妙顕寺第六十二世加歴、並びに当山第三十四世師範顕心院日龍上人より法燈を継承して本年満三十年に至れり。この間、檀信徒の協力を得、平成十二年十二月

祝 開創500年

「仕合わせの和」

と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

本堂改修・庫裡新築。平成二十七年十一月、本堂屋根銅板葺き替え工事。平成二十八年十一月、永代久遠廟の建設等々。御歴代の諸上人並に檀信徒の皆様方のご報恩に報いる為、諸天善神のご加護を受け、寺観を一新することを得たり。はからずも宿福深厚の縁ありて、本日、日蓮宗富山県青年会各聖、並びに組寺々院各聖、又全国ご来賓各諸上人のご臨席を得、ここに真成寺開創五〇〇年記念法要を厳修せり。仰ぎ願わくば当山ご開山慈光院日等上人以来御歴代々の諸先師、増円妙道位隣大覚、報地莊嚴御報恩謝徳。殊更に祈願し奉る、当山繁栄伽藍相續、檀信徒の面々、本日参詣の面々、各々各家内安全、子孫長久。家族の面々身体健全にして如何なる災難来るといへども、口に妙法蓮華経を唱うるがゆえに、大難は小難に小難は無難にとご守護なさしめ給わんことを。



南無妙法蓮華経。

維時 平成二十九年十一月四日吉祥

玉蓮山真成寺第三十五世之伝燈

浄心院日徳 敬白